

教育委員会行政報告

市長の一般行政報告に引き続き、教育委員会から行政報告をいたします。

行政報告の前に、私が教育長として教育行政を進めるに当たって、本市の教育重点目標を踏まえ所信を述べさせていただきます。

○ 子どもが楽しく学び成長を実感できるまち

子どもの学びの基本は授業にあります。日々の授業こそが子どもたちの学ぶ力の原動力です。学ぶことは楽しい、もっと学びたいという児童・生徒を増やすため、児童・生徒が主体となるような体験型の授業を導入していきたいと考えています。

「知識の習得よりも知識を活用する能力」あるいは「問題を発見し、解決する能力」は、今後重視されるべき能力だと考えます。

子どもたちに「既存の知識を有機的に結びつけ、未知の課題を解決させる力」を身につけさせたい。そんな願いからも、体験型の授業を進めたいと考えています。

○ 子どもの成長をみんなで見守るまち

学校支援地域本部は、学校の教育活動を支援するため、地域につくられた学校の応援団です。

これまでも各学校、各地域で、地域の方々に様々な形でご協力を頂き

ながら学校運営や教育活動を行う取組が進んできていますが、学校支援地域本部は、そうした取組の延長線上にあると言えます。すなわち、地域住民が学校を支援する、これまでの取組を更に発展させて組織的なものとし、学校の求めと地域の力をマッチングして、より効果的な学校支援を行い、教育の充実を図ろうとするものです。

学校は地域の中にあり、地域のコミュニティの中核です。子どもは様々な人々との関わりの中で成長していきます。そのような観点から、学校支援地域本部事業を更に推進してまいります。

○ お互いに学びあい、教えあい、人がつながるまち

図書館は、生涯のライフステージ毎に、その時期に必要なとされる情報と施設を提供することにより、人々の主体的な学びや職業、生活を支援する場であり、生涯学習の基礎的基本的施設です。

市民が夢を語り、可能性を広げる場として、コミュニティ作りに役立つ場として、子どもの成長を支え子育てを応援する場として、高齢者の輝きを大事にする場として、文化・芸術との出会いを生む場として、すべての人の居場所として、そして瀬戸内市の魅力を発見し発信する場としての新図書館は、本市に不可欠のものであるとの確信のもと整備を進めてまいりたいと考えています。

○ スポーツを通じ健やかに暮らせるまち

スポーツは、次代を担う青少年の体力向上や公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培う等、人格の形成に大きな影響を及ぼします。

さらに、スポーツは、人と人、地域と地域との交流を促進し、地域の

一体感や活力を醸成するとともに、心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たし、健康で活力に満ちた地域社会の実現になくてはならないものです。

平成23年に「スポーツ基本法」が成立しました。その中で、法の理念の実現のために民間団体等との連携・協働が求められています。このため、教育委員会ではこれまでも本市スポーツの振興に実績のあるNPO法人瀬戸内市体育協会との連携を一層進めつつ、様々な関係団体との連携・協働のもと一層のスポーツの振興に努めてまいります。

○ 歴史や文化を大切にすまち

子どもの豊かな心や感性、創造性やコミュニケーション能力をはぐくみ、日本人としての自覚を持ちつつ国際社会で活躍する人材や地域文化の担い手を育成するためには、地域において、子どもたちが身近に伝統文化や現代の文化芸術に触れる機会の充実が必要です。

このため、牛窓、邑久、長船それぞれの地域に根ざした歴史や文化を大切にし、それをきちんと子どもたちに伝える体制を一層整備したいと思えます。その一環として、新図書館に郷土資料の展示機能を持たせるとともに、備前長船刀剣博物館や牛窓地区にある美術館や他の文化施設の事業を一層充実させてまいります。

私はゆめを持ち、ふるさとに誇りを持てる子どもが育つような教育行政をしたいと考えています。このためには、大人たちが、子どもを地域の宝として育てる環境・風土を教育、文化、スポーツ行政を通じて構築してまいりたいと考えています。今後ともご指導、ご理解、ご協力をよ

ろしくお願い申し上げます。

以上私の所信を申し上げ、教育委員会の行政報告に入らせていただきます。

○ 玉津小学校の統廃合について

玉津小学校は平成25年4月1日に邑久小学校に統合するため、交流学习の実施や路線バスの体験等により、子ども達の不安解消のための交流事業を進め、また加配教員の増員による複式授業の解消により統廃合に向けての環境整備に努めてきました。そして地元住民や学校関係者による玉津小学校統廃合準備委員会で協議を重ね、跡地利用や通学方法についての要望書が準備委員会から市に提出されています。この要望を受け玉津小学校の統廃合の関係予算や条例改正を今議会に提出しています。

なお、3月20日には玉津小学校の閉校式を開催して、明治6年の開校以来約140年の長い歴史に幕を閉じます。

○ 保幼小連携について

学力の向上や問題行動等の改善には、幼少期からの教育の充実が重要です。そのために、昨年度から保健福祉部と連携し、就学前教育と義務教育との滑らかな接続を図る取組を行ってきました。現在、幼稚園と保育園で就学前までに身につけたい「基本的生活習慣」と「学びのスキル」について共通カリキュラムの素案が完成したところです。来年度は、この共通カリキュラムを試行し、修正・改善を行う予定です。完成後は、市のホームページ等で広く公開したいと考えています。さらに、小学校

と中学校との連携についても重点課題とし、今後研究していきたいと考えています。

○ 体験型授業研究推進事業について

学力向上には、子どもたち一人ひとりの学ぶ意欲の向上が最も大切であると考えます。そのためには、学校生活の大半を占める授業をいかに魅力ある充実したものに改善していくか、ということが課題となります。そこで、来年度から「体験型授業研究推進事業」を実施し、先生を対象とした研修を行う予定です。これは、名実ともに授業の達人と言われるような方を継続的に招聘し、実際に体験型の授業や講義をしていただきながら、子どもたちの興味・関心を引き出し、学ぶ意欲を向上させる授業づくりのポイントを習得することを目的とした研修です。体験型授業とは、数学者の秋山仁氏が理事長を務める体験型科学教育研究所が提唱・実践している授業で、大きな成果を上げた例が報告されています。子どもたちの学ぶ意欲が高まる授業を目指して取り組んでいきたいと思っています。

○ 小学校教員遠隔英語研修について

小学校では、新しい学習指導要領の実施に伴い、昨年度から英語活動が小学校5年生、6年生で実施されています。本市では、外国人4名をALT（外国語指導助手）として配置し、幼稚園、小中学校全学年で英語教育を実施しています。これを更に充実していくには、指導者の英語力の向上が大変重要であると考えます。そこで、福武教育文化振興財団の協力を得て「小学校教員遠隔英語研修」を実施する予定です。これは、

インターネットを介し、10人の小学校教員が10日間、外国人講師から集中的に指導を受ける研修です。述べ50時間に及ぶ研修は全て英語で行われ、英会話能力の飛躍的向上が期待できます。今後も子どもたちが英語に親しみ、英語を活用できる力を伸ばすとともに、中学校での英語学習へスムーズに移行できるよう努めていきたいと考えています。

○ 学習支援ボランティアについて

今後、学習支援ボランティアを広く募り、授業中や放課後、長期休業中等に学習の補助をしていただき、子どもたちの基礎学力の定着を図っていききたいと考えています。来年度は、学習支援学生ボランティア事業を開始し、教職を目指す大学生を対象にボランティアを募り、教科学習や部活動等の補助をしていただく予定です。

学生にとっては実践的な指導経験を積むことができ、学校にとってもきめ細やかな指導の充実を図ることができます。また、次年度から更に拡充予定の学校支援地域本部事業の活動の中に、学習支援ボランティアを位置づけ、保護者や地域の方々から協力していただける体制を整備したいと考えています。さらに小中学校連携の一環として、中学生が小学生の学習補助を行いながら交流を深める取組についても検討していききたいと考えています。

○ 学校支援地域本部事業について

学校支援地域本部事業につきましては、本年度は、邑久中学校・長船中学校・牛窓北小学校・邑久小学校・国府小学校の5校が取り組んでおり、延べ約1,500人の地域ボランティアの皆さんのご協力で、登下

校の見守り支援や環境整備、学習支援等を実施しています。その結果、人と人とのつながりが生まれてきた、子どもがよく挨拶をしてくれるようになった等、少しずつ成果が出てきています。

将来的には全小・中学校での取組を目指しており、来年度は今城小学校・美和小学校の2校が新たに加わり7校が本事業に取り組みます。

本事業を効果的に進めるために教育活動支援運営委員会を設置しており、学校支援ボランティア等関係者の資質向上を図るための研修会等を実施する予定であり、講師謝金や運営費等の費用を予算計上しています。

○ 図書館整備について

図書館整備につきましては、平成23年5月の「新瀬戸内市立図書館整備基本構想」の公表以来、市民の皆さんから図書館整備についてのご意見をお聞きする「としょかん未来ミーティング」を7回、延べ回数としては10回に渡って開催してきました。

去る2月16日には、特別編ということで図書館情報大学名誉教授の竹内さとる氏に基調講演をしていただき、後半には「瀬戸内市の図書館をどう育てるか」と題して、参加した市民の皆さんとの意見交換を実施しました。市民1人ひとりの暮らしの豊かさや、地域社会がより元気になるために、公共図書館はいかにあるべきか、また、市民相互が課題や夢を持ち寄って、図書館をともに育てていくにはどのような営みが必要か、竹内氏と市民の皆さんには、熱心に議論していただきました。

これまでの2年間において、議会の皆様や市民の方々から様々なご意見をお聞きしたまとめとして、今年度末に「新瀬戸内市立図書館整備実施計画」として報告させていただく予定となっています。

こうした成果を踏まえ、平成25年度当初予算には、新図書館設計委託料を予算計上しています。また、関連予算として郷土資料館解体工事費、埋蔵文化財発掘調査委託料も予算計上しています。

○ 瀬戸内市スポーツ公園等の指定管理者運営の継続について

平成22年度から平成24年度の3か年、NPO法人瀬戸内市体育協会は、指定管理者として市内3か所の体育施設の効果的、効率的な管理運営を行い、施設の効用を最大限に発揮させてきました。その経験を大いに生かし、さらに「スポーツ施設管理からスポーツ経営へ」を大きな目的として、ソフト面の充実を目指していきます。そして新たに長船B&G海洋センタープールと邑久B&G海洋センター艇庫を加え、平成25年4月1日から平成30年3月31日までの5年間の指定管理運営の継続を進めていきたいと考えています。

なお、今議会に関連予算、指定管理者の指定についての議案を提出しています。

○ 備前長船刀剣博物館の取組について

博物館ではここ2年間、夏季に若者や家族層を対象としながら特別展を開催し、多くの方に来館していただいているところです。平成25年度は、伝統芸術の粋が集まった日本刀の匠と若者に影響を持つ漫画、アニメなどのクリエイターと共同で、新作の刀剣を製作し、その刀剣を主人公にした新しい漫画、小説、アニメなどを書き下ろし、日本刀の「武」と「美」、そして高い精神性が日本の漫画、アニメの中でどのように表現することが可能か、表現されてきたか作品展示を通じて解説し魅力を発

信していくため、特別展「二次元VS日本刀 現代十番勝負」を7月13日から9月16日にかけて予定しています。

また、刀を通した新たな取組として、ポーランド共和国のトルン地域博物館との交流を計画しています。

現在ポーランド共和国には約2,000振りの刀、鐔（つば）3,000点、鎧60領があり、これらの補修、保全技術、データ整理が課題となっています。その中で、日本美術を常設するポーランド共和国唯一の研究機関であるトルン地域博物館では所有している備前刀をメインとした常設展示に力を入れるとともにポーランド共和国での日本刀に関する先進的な役割を果たそうと考えており、備前長船刀剣博物館と交流したいとの申し出がありました。また1月9日にはポーランド共和国駐日大使が刀剣博物館を訪問され、両博物館の交流を希望されました。

今後、博物館レベルで情報交換を行い、良きパートナーとして、日本刀の保管技術、日本刀文化、備前長船に対する理解を深めていきたいと考えています。

○ 美術館特別展の開催について

開館3周年を迎える美術館では、来館者へ芸術の魅力と感動を与えることを使命に、常設の佐竹徳画伯の油彩画をはじめ、特別展、企画展を開催しているところです。

平成25年度の特別展として、やさしさ溢れる言葉で多くの人々に勇気と感動を与えている、100歳の詩人で本年1月に亡くなられた柴田トヨさんの心温まる詩を各界の著名人が書いた作品をメッセージや愛用品と共に展示する柴田トヨ「くじけないで」展を4月12日から5月2

6日にかけて予定しています。

今年度も魅力ある企画を行い、優れた芸術作品の鑑賞の機会を提供し、本市の文化振興が図られるよう取り組んでいきたいと思ひます。

以上をもって、教育委員会の行政報告とさせていただきます。

平成25年2月22日

瀬戸内市教育委員会

教育長 藤原 一成